



金沢大学附属病院

胃腸外科教授 稲木 紀幸

金沢大学附属病院胃腸外科の新教授に、今年3月1日付で稲木紀幸氏が就任した。稲木新教授は、内視鏡下手術やロボット手術など低侵襲外科が専門で、外病院での勤務など地域医療の経験も豊富だ。新教授がめざす医療や今後のビジョンなどについてインタビューした。

### 低侵襲を研究、 教育にも生かす

—稲木教授は福井県のご出身で、大学は金沢大学、石川県立中央病院で長く勤務されるなど北陸を知り尽くしておられます。教授に就任された率直な感想からお聞かせください。

稲木 北陸の生活は長く、修練医として関連病院を回ったのも北陸が中心でしたのでなじみはありますが、教授になって、

特集  
北陸の  
大学病院  
FEATURE

## 低侵襲とロボット手術で 新しい胃腸外科学を発信。

非常に重責を感じています。外の病院にいるときは臨床、研究、教育など大学病院でしかできない仕事に対する思いもありました。実際に伝統ある金沢大学の外科の教室を担うことになり、その重みをひしひと感じているところです。

—関連病院など外の病院に勤務していた当時、金沢大学附属病院の胃腸外科についてはどんなイメージを持たれていましたか？

稲木 胃腸外科の先生方や研究については、学会活動などを通じてよく知っていました。私自身が関係する分野でいえば、胃がんのリンパ流に関する研究で、とくにセンチネルリンパ節という胃の縮小、温存のための手術は金沢大学胃腸外科の代表的な研究です。この手術は先進医療での登録が終わり、今後の成果によっては保険診療になる段階にきています。腹膜播種の研究、治療も代表的な研究だと認識していました。先人の研究、実績に改めて尊敬の念を抱いています。

—胃腸外科の教授として、どんなことから取り組んでいこうとお考えですか？

稲木 一つは、自分自身がこれまでやってきた低侵襲手術、腹腔鏡、胸腔鏡など侵襲が少ない手術法を胃腸外科の大きな柱として打ち出していきたいと考えています。同時に、低侵襲を臨床だけにとどまらず、基礎研究にも、教育にも膨らませたいと思っています。もう一つは、歴史的に胃腸外科の強みが生かせる研究、たとえば腹膜播種、リンパ流などこれまで積み上げてきた研究、実績と、私自身がやってきた分野をうまく融合させて、胃腸外科をさらにグレードアップさせたい。教育面においても、医学教育から研修医の卒前研修、卒後研修に携わること、以前から目標の一つでもあり、特に若い外科医の育成に取り組んでいきたいと思っています。

私自身がやってきた分野をうまく融合させて、  
胃腸外科をさらにグレードアップさせたい。





## ロボットと外科医育成の拠点

「低侵襲を臨床的にも研究、教育の面でも膨らませていきたいというのは、具体的にどういうことを考えておられるのでしょうか？」

**稲木** がんの根治手術に伴う予後、生存率に術後の合併症が影響を与えているということが最新の研究で報告されています。肺炎や傷の化膿など、術後にはいろんなことが起こります。そうした合併症が少ない方が、術後の生存率はよいといわれています。また、低侵襲手術は、患者さんに負担をかけないだけではなく、合併症を減らす手術方法でもあります。とくにロボット手術は合併症を減らす道具の一つで、術後の生存率の向上につながることも期待されます。胃がんであれば、膵臓に関わる合併症が減る。食道がんであれば、声帯の動きに関わる反回神経の麻痺を半減させることができます。つまりロボット手術が、結果的にがんの生存率に貢献することが期待できます。それを臨床だけではなく基礎的な研究や教育の

面にも生かしていこうと思っています。

「若い外科医がロボット手術などをこなすには、経験や実績が必要ではないですか？」

**稲木** どれくらいで使いこなせるかは経験数と期間によりますが、仮に1000という数字を短期間でやるのと長い期間をかけてやるのでは習熟度は違います。やはり集中的に訓練すると効果的であると思っています。こなせるようになるため

## 金沢大学附属病院をロボット手術と外科医育成の拠点にしたいと思っています。

のラーニングカーブとしては、まず20例ぐらいは必要です。それをできるだけ短い期間に集中して身につけられるようにしたい。ただそれをクリアしても、自動車の運転に例えれば舗装道路を走れるレベルにすぎません。そこからさまざまな経験をプラスしていかないといけない。雪道、泥道、アイスバーンと出会ったり、その道路をいかに安全に走るかは経験次第。経験があればあるほどいいと考えています。

「必要な手技を短時間で集中的に身につけるために、どんなことをお考えですか？」

**稲木** 私が留学したドイツの大学病院は、国際トレーニングコースをつくっていて、低侵襲手術を効果的に学べるようになっています。私は、ドイツで学んだ低侵襲外科学の真髄を、日本に戻って金沢大学でトレーニングコースを立ち上げ、若い人たちに体系立てて教えることを実践してきました。その経験を生かして、今後は関連病院とも連携し、魅力的な外科教育のトレーニングシステムを確立し、手技習得を効率よく行えるようにしたいと思っています。

す。近い将来金沢大学病院をロボット手術と外科医育成の拠点にしたいと思っています。仕組みができることで、どの病院に行っても研修でき、個人個人の能力に沿った教育、指導ができますし、そういう喜びが持てるようにしたいですね。

「外科が再編されましたが、その利点をどのように生かしていこうとお考えですか？」

**稲木** 外科が細分化されたことで、より臓器に特化した研究、診療ができる体制になったと思います。自分が得意とする食道・胃、大腸を含めた消化管に力を注ぎ、専門的な研究を追求していきたい。教育面では専門的なことをだけでなく、外科医を育成することも重要です。外科は、緊急手術などではさまざまな臓器に対応しないといけません。私自身も、外病院にいる時は大腸や肝臓の手

術にも携わりました。地域で活躍できる外科医を育てるために、胃腸外科と肝胆膵外科とが、横の連携をしっかりとって、協力すべき部分と専門特化していく部分をうまくバランスをとってやっていこうと思っています。

「教授は、関連病院での勤務など地域医療も経験しておられますか？」

**稲木** 地域で活躍できる外科医の存在は非常に重要です。私は、研修医の2年目には横浜の関連病院に行きました。翌年の3年目には能登の輪島で勤務しました。若い時に、都会と地域の病院の両方を1年ずつ経験したことは、自分を成長させる大きな転機になったと思っています。横浜では外科手術を一生懸命こなし、術後管理病棟に専念して、外来にはあまり携わらないでよかったです。ところが輪島は全然違いました。術前の検査をして、患者さんに説明をして、手術をして、術後のフォローも全部自分です。地域医療とはこういうものなんだと思いました。研修医であってもプライマリケアから手術、術後のフォローまで全部こなさないとけない。少ないマンパワーで、自分の病院でできる手術と専門の手術が必要かどうかを見極め、できることを最大限やらないといけない。留学から戻った時、地域医療講座の役割をもらって週の半分を能登の地域医療のために通った時期があります。地域医療は、絶対におろそかにしたくないと思っています。



「今、外科医不足が叫ばれています。外科医を増やすには何が必要だと思いますか？」

稲木 外科の魅力をしっかり提示すれば、今の若い人たちにもわかってもらえると思います。外科の喜びは、自分の知識と技術を集約して患者さんを救えることです。手術によって患者さんが元気になっていくのを見ることはこの上もない喜びです。外科の手術は技術の進歩とともに進化していきます。内視鏡を使った低侵襲手術は、今日はロボットの技術が導入され進歩しています。技術の進歩は、地域医療にも貢献しています。以前は遠隔地に行くことは先進的な医療から遠ざかると思われていました。でも今は遠隔診療や遠隔支援システムが発達し、今後はロボットによる遠隔手術が研究される時代です。5Gなど通信環境が整えば現実化するでしょう。その時には、若い人たちが地域医療の現場において、遠隔支援や遠隔アシストで我々がアドバイスを指導する。つまり、外科教育や地域医療にも生かしていけるのです。やって

いること一つひとつが全部繋がっている。私は思っています。

「最後に、関連病院や職員に向けてのメッセージをお願いします。」

稲木 私の信条として3つのことを伝えていきます。一つ目は多様性を尊重し、助け合うということ。国籍や性差、学閥をはじめとするさまざまな垣根を越えて交流し、認め合い助け合うことが発展につながります。二つ目は、伝統に敬意を表し、革新を目指すこと。伝統に甘んじることなく、常に新しいことに取り組んでいく。それが新たな伝統になっていく。三つ目は、地域に根ざし世界に発信すること。金沢大学には、北陸に関連病院が数多くあります。地域を大事にしつつ、世界に発信していくことも大切です。これらの信条を大切にして、北陸の外科医を皆で手を取り合って築いていきたいと思えます。



## Profile 稲木 紀幸

金沢大学医薬保健研究域医学系  
胃腸外科学 教授

[略歴]

平成 9年 金沢大学医学部医学科卒業  
平成15年 金沢大学大学院医学系研究科博士課程修了  
平成16年 ドイツチュービンゲン大学低侵襲外科部門  
客員医師  
平成18年 金沢大学大学院医学研究科地域医療学講座 助教  
平成19年 石川県立中央病院消化器外科  
医長を経て診療部長  
平成30年 順天堂大学医学部消化器・低侵襲外科学  
先任准教授  
令和 3年 金沢大学医薬保健研究域医学系  
胃腸外科学 教授